



## 2025年度 市政懇談会 〈町田市町内会・自治会連合会〉

### 次 第

[日時] 2025年11月19日(水) 10:00 ~ 11:45

[場所] 市庁舎 会議室3-1~3-3

司会進行： 市民部長 横山 法子  
町田市町内会・自治会連合会 会長代行 中 一登

#### ○ 連合会長の挨拶

町田市町内会・自治会連合会 会長 高橋 清人

#### ○ 市長の挨拶

町田市長 石阪 丈一

#### ○ 職員の紹介

#### ○ 市政懇談会について

#### 第1部 地域の議題に関する意見交換

- 1 モノレール延伸の早期実現 【都市づくり部】
- 2 境川洪水対策 【下水道部】
- 3 町内会自治会のデジタル化支援継続 【市民部】
- 4 ごみ袋の無料化を 【環境資源部】
- 5 民生児童委員不足対策 【地域福祉部】
- 6 小中学校統廃合にスクールバス導入を 【学校教育部】

#### 第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

#### ○ 閉会の挨拶

閉会挨拶 町田市町内会・自治会連合会 会長代行 中 一登

## 2025年度 町田市町内会・自治会連合会 市政懇談会 議事録

[日 時] 2025年11月19日(水) 10:00～11:45

[場 所] 市庁舎 会議室3-1～3-3

[出席者] 町田市長 石坂 丈一

地域福祉部長 水越 祐介

環境資源部長 岩岡 哲男

都市づくり部中心市街地・モノレール推進担当部長 萩野 功一

下水道部長 西澤 弘泰

学校教育部長 石坂 泰弘

市民部長 横山 法子

町田市町内会・自治会連合会長 ほか35名

事務局 市民部市民協働推進課 6名

司会進行：市民部長

町田市町内会・自治会連合会会長代行

○連合会長の挨拶

○市長の挨拶

○職員の紹介

○市政懇談会について

### 第1部 地域の議題に関する意見交換

#### 1 モノレール延伸の早期実現

多くの町田市民が期待している多摩都市モノレールの延伸計画は、当初2032年完成と言われてきましたが、現時点ではこれは不可能に近い状況と言わざるを得ません。2021年に新ルートが決定し、また2023年には木曽地区から町田市民病院までの基盤となる道路が完成しましたが、新ルートとなった小野路地区と市民病院から町田駅周辺の基盤道路がまだ手付かずです。この二つの地区の基盤道路整備は今後どのようなスケジュールで進める予定でしょうか？また、現時点でのモノレール延伸自体の完成目標は何時でしょうか？

## 【回答】

### 中心市街地・モノレール推進担当部長

1のモノレールの早期実現について、お答えします。

まず、小野路地区と市民病院から町田駅周辺の「基盤道路整備は今後どのようなスケジュールで進める予定でしょうか？」についてですが、現在、市では東京都、多摩市、多摩都市モノレール株式会社とともに、資料1の黒色と赤色で示している2021年に選定された延伸ルートを基本に、モノレールや、導入空間となる都市計画道路について、収支採算性やルートの妥当性の検証を進めております。

現在、小野路地区周辺における延伸ルートは、赤色で示した野津田公園や日大三高付近を経由し、桜台通りに接続する基本ルートとして選定されているBルートと、多摩市の境から多摩丘陵病院の南側を経由し、桜台通りに接続する青色のAルートを比較検討しております。

延伸ルートを決定した後は、都市計画決定などの手続を経て、導入空間となる道路の整備に着手する予定です。

市民病院から町田駅周辺までのモノレール延伸ルートは、資料2で赤く示した都市計画道路3・3・36号及び青で示した都市計画道路3・4・11号となります。

都市計画道路3・3・36号の市民病院から芹ヶ谷公園付近までは、2016年に策定された「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）」において、優先的に整備すべき路線として位置づけられております。そのうち、市民病院から町田高校付近までの区間においては、東京都が2021年に事業着手し、現在、用地取得が進められております。

都市計画道路3・4・11号は、町田駅から芹ヶ谷公園へ向かう、アクセス路としても重要な路線であり、町田市が主体となって事業を進めております。この道路につきましては、現在、用地取得を進めており、取得状況を鑑みて、工事に着手してまいります。

次に、「現時点でのモノレール延伸自体の完成目標は何時でしょうか？」についてですが、東京都は、資料3に緑色で示した、東大和市の上北台駅から瑞穂町の箱根ヶ崎を結ぶ、延長約7kmの箱根ヶ崎方面延伸路線について、今年の3月に都市計画決定を行い、2030年代半ばの開業を目指すこととしています。

これを踏まえますと、町田方面延伸路線につきましては、箱根ヶ崎方面延伸路線から事務手続が、5年程度遅れて進んでいるため、開業時期は2040年代に入ると見込んでいます。

## 《質疑》

### 中町中央町内会

先日の私たちの説明会でも同じような質問と意見を述べさせていただきましたが、1つ質問です。町田方面ルートの図を出していただきたいのですが、先日の懇談会の中では、BルートではなくてAルートに戻して検討しているとおっしゃったので、その理由はどのようなところなのか、1点説明をお願いします。

それから意見ですが、ずっとこの町田駅近くのルートの拡大をお願いしているのですが、そのルートはうちの地域ですので何度も意見を出しているのですが、この赤いルート、3・3・36号線から3・4・11号線ですが、芹ヶ谷公園を通すのですよね。だから、芹ヶ谷公園は何とか守ってほしいという立場で、しかも、市民にとっての公共交通の足ですので何とか実現させたいという立場で何度も対案を出したのです。市民病院まで大きな道路が来ました。それを曲げないで真っすぐに町田駅に、町田街道を通してほしいと。

そうしましたら、モノレールは拡張しなければならないので無理ですという、何度もそれはお聞きしているのですが、私はモノレールにこだわらないで、BRTでいかなものかと。要するに、高速専用バス、専用レーンを造っていただくと。町田市は、町田街道は今もう2連バスを既に導入しております。

ですので、モノレールにこだわらずに、公共交通の足として、何かそういう曲げることをしないでほしいと。今、上のほうのAルート、Bルートの検討も始めたということですので、そこら辺の意見なども言っているのですが、可能なのかどうか。もうちょっとモノレールにこだわらずに市民の足を確保していくという意味で、BRTの導入の検討をぜひお願いしたいと、以上です。

#### 中心市街地・モノレール推進担当部長

今3点、ご質問をいただきました。まず1点目は、Aルートに戻して検討している理由はということですが、現在選定されています東京都が選定したルートは、多摩センターから真っすぐ尾根幹線に降りてきて、それから小野路宿通りを通過して、野津田公園の西側、芝溝街道の並木交差点にきます。並木から図師大橋の入り口を北側に上がり、日大三高の下側を通過して、新竹之内橋付近で、桜台通りにぶつかるルートが現在選定されております。このルートは、約16kmあります。今検討しているのは、もともと交通政策審議会、国土交通省の交通を決める審議会が出していたのがAルートになります。これは多摩センターから町田駅まで13km程度、約3km短くなる路線です。もともとBルートで21年に決まって、もう1回、Aルートを検討しているのは、ここ二、三年で建設費の上昇が非常に著しく、現在の試算の中では約1.5倍程度に建設費が上がっている状況です。このことを踏まえたと、長いルートと、短いルートの乗客数ですとか、建設する際の収支採算性をもう一度見直すべきではないかということで、町田市のほうからは、Aルートもしっかり検討してほしいと東京都に要請をして、AルートとBルート両方を今検討していただいている

形になります。

木曾団地から市民病院の前まで真っすぐ来て、町田街道にぶつかって、そのまま真っすぐ行くルートが理想ではないかというお話なのですが、これも町田第二地区の質問でもありましたけれども、この都市計画道路は16mの幅で既に完成をしております。モノレールを通すためには、最低22mの幅員が必要となります。そうすると、6mほど幅が足りません。モノレールを造る場合に、道路に支柱が30mくらいの間隔で入ってきます。長いところはもう少し、50mくらいのところもありますが、そういった支柱を入れるため、今の交通量を確保しながら入れていくと22m必要です。

町田街道は16mですから、もう1回、6m拡幅しなければいけなくなる。こちらにお住まいの方たちについては、既に16mで都市計画道路が完成しているということで何の規制もかけていません。もっと言うと、もう道路際までマンションが何棟も建っています。これからやる都市計画道路につきましては昭和の時代から規制をかけています。昔は木造の2階建てまでしか駄目と。今はちょっと規制が緩くなって3階までは大丈夫という形になってはいますが、鉄筋コンクリートの構造物は造れない規制がかかっています。もちろん、この人たちは、もう何十年も前から、将来、都市計画道路が通りますという状況を把握されています。

そうすると、町田街道沿いの建物を避けるために、例えば6m逆側に振る等のいろいろなご意見があるでしょうし、均等にやると言ったら、さらに補償費が膨らんでいきます。建物を全部壊して再建のための費用も出さなければいけないので、現在の計画のほうが費用面でも有利ですし、芹ヶ谷公園のグラウンドの上に橋を造ったとしても、現在の計画のルートのほうが経済性では有利だと考えております。

最後の質問ですが、BRT、バスの専用レーンを設けて、導入できないかということですが、これも道路の幅員に関係してきます。道の幅員がさらにもう1車線取れるということであれば検討の余地はあるのですが、町田市の道路としては、今4車線、要は片側2車線の道路を造らないとBRTは難しく、今の段階では、そこは検討していません。

あと、LRTとか、宇都宮に短い路面電車のいいものがあるのですが、町田市は地形的に多分無理だと思います。非常に勾配がきつい部分があり、鉄道は意外と緩い勾配でしか走れません。モノレールも道路よりは勾配が緩くなるのですが、橋脚の高さで調整はしますが、LRTは、坂とかも登れませんので非常に厳しく、現在のところはモノレールを進めていくという考えで、町田市は東京都に一生懸命働きかけている状況です。

#### (司会) 町田市町内会・自治会連合会会長代行

この件については、話せば幾つでもまた問題や課題が出てきますけれども、

現状がこうだということをしっかり認識して、巷でのうわさだとかに惑わされないようにお願いしたいと思います。

### 鶴川5丁目町内会

モノレールの件は、できるのはいいのですけれども、どこかに駅ができるのですか。それが、今まで1回も聞いていないのですよね。どこにステーションができるのか、どこに乗り場があるのか、この図面だと何も載っていないのです。どこが乗り口で、どこが降り口とか。降り口が何もなければ1本だけ真っすぐ造ればいいことであって、今まで質問されていることについて、ルートがAとBとしても、降りるステーションがあるのかないのか、そういう説明も何もない。センターと町田をつなげるのなら、真っすぐつなげればいいことだと思うのですよ。すみませんが、その話が全然ないのに、どうやって我々は聞けばいいのですか、となるのです。

### 中心市街地・モノレール推進担当部長

モノレールは、駅は当然できます。お客さんを乗せて需要を取り込んでいかなければなりません。先ほどの例えで言いますと、上北台から箱根ヶ崎の間が7kmと言いました。その間に駅が7つできます。モノレールは、おおむね1kmごとに駅が1か所できてきます。町田市のルートでどこに駅ができるのかは、まだ東京都は明確には出しておりません。ただ、我々が確実にできると思っている桜台ですとか、需要の多い桜美林学園、木曾山崎団地、市民病院、あと、忠生とか、おおむね1kmから2kmの間で1か所ずつ駅が造られ、さらに、桜美林学園ですとか山崎団地の付近については大きめの交通広場を造ってバスを集約していきます。

今、運転手不足で、皆さんも実感されていると思いますが、バスの減便が進んでおります。多分、これは今後も改善される兆しは見えないかなと思っています。これを解決するため、骨格交通としてモノレールを造って、主要な駅に短い距離でバスを集めていくことで皆様の交通手段を確保する考えで進めています。駅位置はまだ明確には出ていないのですが、1kmから2kmの間でモノレールの駅はできていくというご理解をいただければと思います。

### 金井町内会

鶴川地区の者といたしましては、Aルートは反対なのです。Bルートでお願いしたいと思っております。Bルートのほうが収益もあるでしょうし、鶴川では試合のときに道路が混んでしまっしょうがないのです。そういうこともありますので、それだけです。すみません、よろしく申し上げます。

### 中心市街地・モノレール推進担当部長

ルートについては、収支採算性とか需要とか、様々なものを検討しながら最終的に東京都のほうで決定していく状況になります。今の段階でAになりました、Bになりましたというものではなく、今Bが選定されていますが、収支採算性も考えながらこれから決定していく形になります。

## 2 境川洪水対策

今年の猛暑に象徴されるように世界中で異常気象による災害が頻発しています。日本でも今年には九州や北海道での異常降雨が発生しています。町田市では、豪雨による境川の洪水が大きなりスクとなっています。境川は、2012年に東京都の重点整備河川に指定され、時間降雨量65ミリにすることに決定しています。その後境川の神奈川県所掌区域の藤沢市周辺の河川整備が進まないため、現在でも30ミリの流下能力のまま、常に洪水の恐れがあり、周辺住民は不安な生活を送っています。東京都は現在3か所で遊水地の整備を進めていますが、昨今の豪雨を見ますと効果は限定的と言わざるを得ません。やはり本来の流下能力を増やすことが必須です。

忠生、相原、小山地域では、神奈川県所掌区間のため、毎年津久井治水センターとの意見交換会を開催していますが、今年の会で、根岸橋から馬場橋の区間は、神奈川県の重点整備区間として60ミリ対応の工事を進めており2033年完成予定とのことでした。下流の藤沢市の相鉄線との交差点の改修工事も進んでいます。また藤沢市街地の整備計画もあると聞いています。すでに神奈川県が60ミリ対応にかじを切った以上、根岸橋から下流の東京都所掌区間においても、遊水地の整備に加え、早急に本来の65ミリ対応の改修を進めていただけるよう東京都に強く働きかけをお願いします。

### 【回答】

#### 下水道部長

境川では、2015年に策定された「境川水系河川整備計画」に基づいて、概ね30年間で東京都管理区間では河川整備で50mm、調整池などの流域対策で10mm、調節池整備で5mm、合わせて時間雨量65mmの降雨に対応した整備が進められており、神奈川県管理区間では河川整備、流域対策及び遊水池整備、合わせて時間雨量60mmの降雨に対応した整備が進められています。

町田市の上流側を管理している神奈川県においては、河川改修事業として根岸橋から馬場橋上流まで約3kmを重点整備区間として位置づけ、2009年から事業に着手し、これまで事業用地の取得や改修工事を進めており、2033年度までの時間雨量60mmの降雨に対応した完成を目指しています。

当区間を管理している神奈川県厚木土木事務所津久井治水センターにおいて、毎年流域町内会・自治会との意見交換会が開催されており、町田市もこの会に参加し、情報共有や連携を図っています。

また、町田市の下流側の東京都管理区間では、既に50mm規模の降雨に対応する河川護岸は整備済みとなっております。

ただし、鶴間小学校付近の鶴瀬橋から下流の神奈川県管理区間において、相鉄線との交差部や藤沢橋周辺で川幅が狭くなっている箇所があるため、流下能力が概ね30mmとなっております。現在工事中の相鉄線との交差部においては、2029年度の完成を予定しておりますが、藤沢橋周辺の整備には、長期間を要する見込みであると神奈川県から伺っています。

河川の改修は下流から行うことが原則であり、東京都からは下流側である神奈川県管理区間の相鉄線交差部、藤沢橋周辺のボトルネック箇所が解消されないと流下させる水量をこれ以上増やせないと聞いています。このため東京都は、上流側の町田市周辺の安全性を早期に向上させるため、調節池の先行整備を行っています。

東京都からは、「境川金森調節池につきましては、本体構築が概ね完成し、越流提工事や排水ポンプ等を設置する設備工事に着手し、2026年度の取水開始を目指し、2028年度の事業完了を予定している。」と伺っています。

また、「境川木曾東調節池につきましては、10月から取水を開始し、2026年度の事業完了を予定しており、境川木曾西調節池につきましては、現在、工事に着手しており、事業の完了は、2035年度を予定している」と伺っています。

これらが完成すると合わせて約25万 $\text{m}^3$ の貯留量となる予定です。東京都は、将来的に東京都管理区間に合計貯留量約76万 $\text{m}^3$ の調節池を整備することとしています。

境川の整備要望につきましては、神奈川県に対して10月に河川整備を担当している神奈川県県土整備局河港課を訪問し、昨年度に引き続き境川の早期整備を強く要請してまいりました。

また、東京都に対しても、境川流域の治水安全度を早期に向上できるようにさらなる境川流域の整備を強く働きかけてまいります。

## 《質疑》

### 町田市町内会・自治会連合会会長

ただ、調整池というのは能力に限界があって、何時間ぐらいもつのかはよく分かりませんが、やはり流下能力を上げないと、どこかで多分あふれるだろうと。それで、昨今の世界各地で起こっています異常降雨に、この調整池がどれぐらいもつものかというのがなかなか難しいところだと思います。いろいろな前提条件をつくって計算しないと無理だと思うのですが、もう神奈川県所掌部分で既に60mm対応が始まっているということならば、恐らく東京都も着手してから相当な年数がかかるでしょうから、ぜひ60mm、あるいは65mm対応を早急に計画だけでもいいからつくってほしいと思います。

それから、藤沢橋のところはネックになって、本当に町のど真ん中を抜けているような川でございまして非常に難しいのは分かるのですが、土木事務所に聞くと、一応基本計画はあるのだという説明ですので、ぜひそれは、どうやったら実現するのかはよく分かりませんが、我々にとっては東京都からプッシュしてもらい以外に全くやりようがないので、下流のネックがあるから上流であふれさせるといふのは、理屈としてはそうかもしれないですが、我々としては非常に耐えがたいということを考えておりまして、神奈川県にもう少し強力でプッシュしていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

## 下水道部長

先ほど2か所のボトルネックがあるとお話をさせていただいて、相鉄線の交差部については2029年度に事業完了予定ですので、1か所については解消見込みがあるということなのですが、藤沢橋のほうはまだ事業が見通せていない状況でございます。私も10月に神奈川県に行きまして、藤沢橋周辺の検討状況について確認をしてきました。もともとこの川の過去の経緯としては、隣の川とバイパスをしたらどうかという計画もあったのですが、これはなかなか難しいということで断念されています。

今検討している内容としては、この藤沢橋の上流、下流は結構川幅があり、藤沢橋の近くのこの部分だけが非常に狭くなる場所があるので、藤沢橋よりも上流のどこかで川を分岐させて、ここを迂回して、また下流のほうで合流させる方法がないだろうかということで、地中深く掘って、川の下にもう一つ川を造り、二重の川にして流量を増やせないか検討しているということです。

ただ、今、この辺の調査を委託して、どこの場所から分岐させて、どこの場所から合流させたらいいのかといったところについて、場所の選定ですとか地元対応とかもありますので、まだ東京都等にお話しできる段階ではないのですが、そういう調査を今進めていると聞いております。その辺の目処が立った段階で地元調整ですとか用地買収に入ってくるということで、先が全く見通せないかということ、一応事業に着手するための調査には入っているということです。

これができているのも、昨今、国の国土強靱化の補助金で相鉄線の狭窄部、藤沢橋の狭窄部も補助金を使いながら、分岐をさせるための計画について検討しているところです。もう少し経たないと、具体的な事業がどのように進むのかという説明まではできないと思っておりますけれども、検討に入っているということだけは、今お伝えできるかなと思っております。よろしくお願いいたします。

## (司会) 町田市町内会・自治会連合会会長代行

皆さんもご存じのとおり、昨今の自然現象には、なかなか100%満足いくというのは難しいですが、これからお互いに情報交換をし、東京都、あるいは

神奈川県への要望をよろしく申し上げます。

### 原町田一丁目町内会

境川の洪水対策は十分に進んでいるというのは私自身も理解できます。ただ、町田市全体で見ると鶴見川水系がかなり面積的に大きくて、境川が面積的には少ない。その中で、この間も原町田地区で歩こう会を恩田川でやったのですが、非常に景観がよく、桜並木の紅葉を楽しんできました。それに比べて恩田川流域は、町田市以外は公園とか遊歩道を非常に整備されているのですが、町田市内を通っている恩田川は公園整備などが非常に欠けているのではないかと。私自身、しょっちゅう自転車や歩いて通っているのですが、その辺のところ、景観等を伴って整備される予定はあるかないか、お聞きしたいです。

### 下水道部長

河川の関係ですと下水道部なのですが、周辺の整備になると、今日は担当が来ていないので、私からお答えを申し上げることはできないので、申し訳ございません。

### (司会) 町田市町内会・自治会連合会会長代行

よろしいですか。またお時間があるときにお話しできればと思います。

### 原町田一丁目町内会

気に留めておいていただきたいと思います。

## 3 町内会自治会のデジタル化支援継続

町田市では町田市デジタル化総合戦略を策定し、デジタル技術を活用した市民サービスの向上に取り組んでいるとお聞きしています。「LINE」での各種行政情報の伝達や、町田市防災WEBポータルなど部分的には、市民生活と連結していますが、町内会・自治会が利用するデジタル町内会「いちのいち」などとのデジタル連結は不十分です。また、町内会・自治会が行う各種申請のデジタル化についても対応が遅れていると感じています。町内会・自治会のデジタル化についてどのようにお考えでしょうか。

町田市の町内会・自治会では、加入促進とりわけ若年層会員の増加や活動の効率化を図るため、デジタル化に取り組んでいます。3年前からは東京都の実証実験に町田市とともに参加し、小田急電鉄が開発したデジタル町内会「いちのいち」の普及に奮闘しました。しかし、小田急電鉄は当初の約束であったシステム基本部分の無償提供を翻して、2026年度からすべて有償とすることに方針転換しました。町内会・自治会としても、会員の減少に悩む中、会費の値上げはできず、有償化は受け入れ難い状況です。さらには今年6月に実施し

た「いちのいち」のリニューアルでは多くの問題や不具合が生じ、利用者が大きく減少している状況です。このため、連合会では「いちのいち」に変わる新たなシステムの導入に向けた検討を進めています。

町内会・自治会のデジタル化の検討にあたっては電子回覧板などの機能の他に、加入による特典が感じられるような、例えば買い物や飲食店で利用できるクーポンやポイントなどの機能の可能性も検討することで、町内会・自治会だけではなく産業振興等にも効果の波及が期待できると考えます。デジタル化は町内会自治会が抱える課題に対する重要な解決手段の一つと考え、取り組んでいるところです。新たなシステムに必要な機能の検討や運用に関する助言、財政補助など町田市各部署が一体となった支援をお願いします。

## 【回答】

### 市民部長

まず、「町内会・自治会のデジタル化についての市の考え」についてお答えいたします。

町田市町内会・自治会連合会をはじめ各町内会・自治会におかれましても、デジタル技術の活用を、様々な課題解決の手段ととらえ、積極的に取り組まれていることは承知しております。

市としましても、人口減少社会の進行と人手不足がますます深刻化する中、行政サービスを継続していくため、AIをはじめデジタル技術の活用は不可欠であるという考えのもと、デジタル化に取り組んでいます。

デジタル化の基本方針として「デジタル技術を活用した市民サービスの向上」、「デジタル技術を活用した生産性の向上」、「デジタル技術を活用した新たな価値の創出」の3つの方針を掲げており、町内会・自治会が行う各種申請のデジタル化については、「デジタル技術を活用した市民サービスの向上」として、行政手続をいつでも、どこでも、簡単にスマートフォンやタブレットなどからオンラインで行える仕組みへと改革し、利便性を高める取組として進めているところでございます。

町内会・自治会に関係しているところでは、毎年ご提出いただいている活動届や活動補助金申請が電子化されています。

メールで提出できるというものですが、昨年はメールによるご提出は10団体ほどでした。今年のご案内ではメールで提出ができることを強調するとともに、書類作成が簡単にできるように自動計算の式を入れた電子データを市ホームページからダウンロードできるようにいたしました。

また、よくお問い合わせのある事例についても合わせて掲載するようにし、作成に当たっても分かりやすく簡単にすることで、来庁して聞きながら記入するという方をはじめ、お問い合わせも減り、メールを利用した補助金申請数は今年、50団体ほどに増えております。

活動届の提出では約70団体、全体の1/4ほどがメールで提出されています。

単にデジタル化するだけでなく、デジタルを利用しやすくする工夫も合わせて行ってまいりたいと考えております。

一方で、対面での申請が残っていることは認識しておりますので、今後とも、関係部署と連携・調整を図りながら、デジタル連携の強化や各種申請のデジタル化などに取り組み、皆様の負担軽減を図ってまいります。

ご指摘のデジタル町内会「いちのいち」につきましては、2022年9月に東京都の試験的導入に参加する形で導入し、利便性や有効性をはかるためには一定程度の期間がないと難しいというお声があったことから、市から小田急電鉄にお話をして無料期間を延長し、現在に至っております。

今年6月にシステムや料金設定の変更を受けて、「いちのいち」を使い続けることは難しいという判断から、「いちのいち」に代わる新たなシステムの検討を町内会・自治会連合会の皆様を中心となって始められ、市にもご相談いただいておりますので検討のご協力をしていただいております。

新たなシステムの導入検討には、まず町内会・自治会の皆様がデジタルを使って実現したいこと、機能として何が必要で、何が不要なのか精査することが第1歩と認識しております。

市との連携のしやすさや活用の幅が広いことも必要なことの一つかと思われます。引き続き、デジタル化に限らず町内会・自治会活動への支援を行ってまいります。

## 《質疑》 なし

### (司会) 町田市町内会・自治会連合会会長代行

皆様ご存じのとおり、負担が、いろいろ問題があったりしますので、これは連合会と市民協働推進課と十分相談して、負担がゼロになるのはなかなか難しいですけれども、いろいろ相談していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

## 4 ごみ袋の無料化を

ごみ袋の有料化によりごみ減量がすすんでいるのは大変良い事だと思います。ただ昨今の物価高の情勢下で、市民にとっても必ず購入しなければならない袋代金は、大きな負担となっています。このごみ袋に広告を載せることによりコストダウンを図り、少しでも袋の値段を下げるような努力をお願いします。

## 【回答】

## 環境資源部長

町田市では、ごみの減量・資源化の推進、公平な負担を目的として、2005年10月から指定収集袋制度によるごみの有料化を開始しました。有料化以降、新型コロナウイルス感染症が流行した2019年～2020年を除いて、ごみの排出量は減少しています。

ただし、市民1人当たりのごみ量は、多摩26市の中でも5番目に多く、また、町田市の清掃工場である、町田市バイオエネルギーセンターで処理しきれないごみを、多摩ニュータウン環境組合の清掃工場へ、処理を依頼している現状です。

そのため、今後ごみの減量と資源化を進める必要があることから、ごみの排出抑制を目的として始めたごみの有料化を、無料化とする予定はございません。

また、ご提案のあったごみ袋への有料広告の掲載について、外袋への有料広告の掲載は、既に導入しており、2024年度は、80万800円の広告収入がございました。

ご提案の趣旨からは少し外れるかもしれませんが、来年2026年4月から、市全域で、容器包装プラスチックの分別収集を開始します。容器包装プラスチック用のごみ袋の価格は、「燃やせるごみ」や「燃やせないごみ」の半額としていますので、きちんと分別していただくことで、ご家庭の負担は減るものと見込んでおります。

既に分別収集を実施している地域につきましても、より一層の分別のご協力をお願いいたします。

制度の趣旨をご理解いただき、今後ごみの減量と資源化にご協力をお願いいたします。

### (司会) 町田市町内会・自治会連合会会長代行

皆さんが要望するような無料にはなかなか遠いことだろうということです。ただし、皆さんもお聞きになっていると思いますけれども、バイオエネルギーセンターが、分別がしっかりされていないために、スケルトンをはじめ、あそこにあるクレーン車がリチウムイオン電池で爆発して、これが2億、3億かかっているということで相当費用もかかっていますので、そういうものについても我々のほうでいろいろ考えて、ごみの減量、あるいは分別をしっかりしなければいけないだろうと思っていますので、ひとつ協力をよろしく願います。

また、これについては皆さんからご意見等があれば、話はもんでいきたいと思っていますので、よろしく願います。

## 5 民生児童委員不足対策

現在、民生児童委員の欠員が目立ち、また民生委員自体の高齢化が進み、しかも補充のための希望者が少なくなって、深刻な問題となっています。民生委員の待遇の大幅改善をはかるとか、あるいは市職員が当たるとか、なんらかの対策をお願いします。

## 【回答】

### 地域福祉部長

地域における民生委員や町内会の役員等のなり手の確保は、市としても大きな課題と捉えております。

民生委員には「高齢者の見守り訪問や、地域にお住まいの方の困りごとの相談など、大変な仕事を担っている」という漠然としたイメージがあり、民生委員になることへの心理的なハードルが上がっているという点も、なり手不足の一因であると考えます。

町田市でも業務負担についての分析を行った結果、高齢化により、高齢者見守り訪問の世帯が増加し、また他市と比べても業務が多岐にわたるなど、実際に負担が大きくなっていったことが分かりました。

まずはその解消のため、これまで町田市民生委員児童委員協議会と、民生委員の担う業務を整理し、負担を軽減する話し合いを進めてまいりました。

あわせて、より活動しやすい体制に移行するため、これまで1担当区域を1名で担当していたところを、小学校区を単位として4～5名の委員で担当する班体制とし、委員同士のフォローをしやすくするための見直しも行いました。本年12月に行われる3年に1度の民生委員一斉改選を機に、先ほど申し上げました班体制を導入し、新たにスタートする予定です。

こうした取組について、「民生委員は大変な仕事である」という漠然としたイメージを払拭できるようPRしてまいります。

また、活動に要する経費として支給している「民生委員活動費」を、今年度、月額8800円から1万円に大きく増額いたしました。

今後も民生委員のなり手を確保し、町内会・自治会をはじめとした様々な地域の皆様と共に、地域福祉の向上を図っていきたいと考えています

## 《質疑》

### 金井町内会

その前に、ごみの有料化のときには、なぜ意見を取らなかったのでしょうか。まずそれが1点です。

あと、民生児童委員のことですけれども、体制を改定ということですが、実際に働いている方からご意見お伺いいたしますと、一人一人に対しての人数は変わらない、忙しさについては変わらないと。やはり人がいないと、高齢者の方とかに十分に体制を整えて、そういったことを行ってあげることが

できないということだったので、この体制自体もまた見直していただくか、一人一人の民生児童委員さんに負担がかからないようなことを考えていただきたいと思います。

それと、実際に動いている方からのご意見がございましたのでお伝えさせていただきたいということで、その辺のところも、こういった意見があることを懇談会の中で出すことでよくなっていただければ、それは非常によいかと思いますので、こういうこともあるということをご心していただいて対策をお願いしたいと思っております。

## 地域福祉部長

民生委員の皆様一人一人の業務負担が大きいというのは、これは本音であろうと思っております。そこで、先ほど申し上げましたような、まずは業務整理をいたしました。それから、ここで市内各5地区に完成をいたしましたまちだ福祉〇ごとサポートセンターとの連携によりまして、地域の皆様の困り事等を民生委員の皆様からそちらにお持ち込みをいただくことで、しっかり連携しながら解決に向けた取組を進めていくということで、そうしたことで日頃の負担を軽減できるように、あるいは、そうした中でも地域の福祉向上を目指しているところでございます。

ただ、今いただきましたように、やはり人間の数が大事なのだということは当然そのとおりですので、こうした取組によって少しでも民生児童委員の業務をお引き受けいただくハードルを下げて、この上でしっかりとリクルートというか、人探しというか、お願いをしていきたいと考えております。

小学校区を単位としたということはもう一つ意味がございまして、小学校というのは地域の皆様のよりどころということで、子育て世代から非常に関わりを深く持つところとございまして、そうした中で、PTA活動をはじめとした様々な地区活動に参加をしていただいている方も多くございますので、そうした方を、その流れの中で民生児童委員というような地域の担い役としての役割を引き続き担っていただけるようお願いがしやすくなるかなというところも我々としては想定をしているところですので、これからはしっかりとそういったところをPRしながら、担い手、なり手についてしっかりとお願いをしてまいりたいと考えております。

## (司会) 町田市町内会・自治会連合会会長代行

1つ聞きたいのですけれども、先ほどの手当で月額1万円に値上げということは大変ありがたいのですが、これは厚労省の委嘱事業ですよ。厚労省からは、そういう面では何かプラスアルファや、この1万円は全て委嘱されていることですから、厚労省から出ているのか。できればもう少し負担を抑えていただければありがたいなと思います。

## 地域福祉部長

先ほどの報酬の件ですが、こちらは東京都から出てきておりまして、金額につきましても東京都が定めているところです。これまでの8800円から1万円へ大きく増額をしましたという言い方を申し上げましたが、実は、これまではずっと8600円だったのです。それが2019年に200円上がって8800円なっています。それからずっと据え置きがありまして、ここで1万円になったということで、これまでの6倍の上げ幅でしたので大きくという表現をさせていただきました。そうした規模感でございますが、この費用につきましては全て東京都から出ておりまして、今後も、金額についてはいろいろな状況を加味して検討されていくのだろうと考えております。

## 滝の沢自治会

質問を2点、まず、先ほど小学校に対して四、五人、そのようにおっしゃっていましたがけれども、小学校は今後半分になってしまうのですよね。そういう場合、いつの時点の四、五人なのですかということと、あと、私の妻は民生委員をやっているまして、今日はシビックホールで表彰式に行っているのです。

私個人ですけれども、一番問題になってくると思うのは、平日に呼び出されるのです。業務に関しても平日にやらなくてはいけないのです。今、共働きの家族が多いですよね。そういう方に民生委員をやってくださいと言っても、これは無理なのですね。そういうところはどう考えているのかをお伺いしたいです。

## 地域福祉部長

小学校区単位については、今、町田市が進めています新たな学校づくりという中で再編を進めておりますが、そうしたところを今後ベースにしていくこととなりますので、いわゆる小学校区としては、数は減ってくるようになります。

あと、平日の活動ということでございますが、これは本当に大きな課題でございます。日本に多くいる、我々も含めた勤労者というか、いわゆるサラリーマンの世帯については、なかなかかなりにくいところがございます。活動につきましては、例えばサラリーマンの方であれば休暇を取っていただいたりしながら参加していただいている状況ではございますが、実際には、その辺の活動の仕様というのは民生・児童委員協議会の中でもしっかり検討していくような内容になるのかと思います。そこを全て違う時間帯でというのは、また逆にそれはそれで大変な話なので、大きな課題として、どちらかというとも永遠のテーマに近いかもしれませんが、今後も検討はしっかりしていかなければいけないと考えています。

## 滝の沢自治会

お答えの趣旨がよく分かりません。

あともう一つ、新しい学校の計画に沿ってやるということは、結局、担当地域が広がるのですよね。今まで2つあったものが1つになって、それを四、五人でやるのですよといったら、前はそれぞれに四、五人いたのが半分になってしまうわけです。定員は減るからいいのですが、地域は広がりますよね。その辺をどう考えているのかということと、平日にやることを変えることはできるのかということ、例えば市役所から金曜日の夕方とかに呼び出されるのです。それを休日に変えられないものなのですか。

### 地域福祉部長

まず、民生委員の定数は別にあります。これは東京都で定めた町田市における定数がございますので、その定数は社会状況の変化によって常々変化はしていくわけですが、学校区が変わったからといって、その定数が直ちに変わるということではないので、配分が変わってくるという考え方になると考えています。ですので、これから高齢化がさらに進展していく中で、やはり民生委員の数がもっと必要だろうということになれば、これは上のほうに変化していくのでしょうし、逆のこともあり得るということで、今回は、そうした状況の中で定数がこの11月に改正をされてきているわけですが、それは常々見直されていると。ただし、小学校区の動きと定数の動きは連動するものではありませんので、直ちに半分になることはないということでございます。

あと、すみません、活動の日、曜日というのは私がこの場でできる、できないと直ちにお答えができる話ではないので、それぞれの部署として、あるいは協議会としても、その辺をどう考えていくかということで今後考えていくテーマなのだろうと思いますし、町田市役所としても、そうしたことはしっかり認識していきたいと考えています。

### 滝の沢自治会

私が質問したいのは、小学校の数が減ります。今、小学校単位で四、五名になります。将来、例えばある地域で小学校2校から1校に統合されます。当然、学区域が広がります。それでも四、五名でやるのですかという話です。

### 地域福祉部長

そこは、先ほどお話ししたとおり、定数とは別の話ですので、今、学校が半分になるから定数を半分にするという議論は一切ありません。例えば学校が半分になれば、その学校区が、単純に言えば倍に広がるということになれば、当然その中を今の定数の中で割り振りをしていきますから、四、五人から七、八人になるとか、地域の広さによって、その辺はいろいろ調整をしながら人数を割り振ることになります。定数と小学校の数は連動しないということは、そこ

だけご理解いただければと思います。

#### 滝の沢自治会

先ほど、連動すると言っていましたよ。

#### 地域福祉部長

いえ、しないと仰いました。

#### 滝の沢自治会

新しい学校づくりの計画に沿って行いますとおっしゃいましたよね。

#### 地域福祉部長

それは、配分をするということです。

#### 滝の沢自治会

ただ、配分が変わるのでしょうか。

#### 地域福祉部長

変わります。そのように申し上げます。今、四、五人でやるということ  
を申し上げますが、今後、学校が変わってくれば、当然、市域は変わりま  
せんので広さは変わりませんから、学校の数が減るのであれば、いわゆる学校  
区は広がってくるわけですので、そこを担当する人間は今の定数で割り振りを  
し直しますので、今よりも増えてくる。単純に増えてくるという計算になりま  
す。

#### 滝の沢自治会

ということは、小学校区を単位として四、五名というのは全く意味をなさな  
いということですね。

#### 地域福祉部長

いや、現時点での大きな意味をなしております。今、1つの学校区に対して  
四、五名、今まではそれぞれの民生委員さんに地区を割り振って、その地区を  
1人で担当しておりましたので、例えば、そこを1人で抱えざるを得ない状況  
があつて、心理的な負担であつたりとか、昨今では、やはり女性1人のお宅に  
男性が訪問することに対してのいろいろな懸念もあつたりする中で、やりにく  
い部分もあつたと思います。

グループでやることで、そうしたところを解消していける。ですので、1つ  
の学校区単位に4名、5名でやっていくというのは非常に大きな意味がありま

す。数というのは、たまたま今の学校区に対して、学校の数に対して定数を割り振ったときにそうなりますよということになりますので、今後、学校の数が変われば、その中を担う人間は今の定数で割り振りをし直しますので、変わってくるようになります。

### 滝の沢自治会

私が知っているのは私の地域だけなのですが、担当区域と小学校区は全く違っていて、違っているというのはおかしいかな、小学校区で見ると細分化されているわけです。それぞれが1名で担当しているので、この文章を見ると、小学校区域に担当が1人しかいないみたいなイメージで捉えてしまうのですが、そのようなことはないのですよね。

### 地域福祉部長

ございません。

### 滝の沢自治会

実際には、今の私の担当している小学校地域には、そもそも四、五人いるのです。だから、おかしいと思うのです。これをやったから楽になるということではないですよ。

### 地域福祉部長

班体制に移行することで直ちにそれが——先ほど申し上げたところでの心理的な負担は下がると思いますが、業務量としては割り振りをし直しているというだけですので変わらないです。ただ、もともとの業務量を整理するという作業がその前に入ってきますので、そうしたところで、まずは業務の負担を下げる。それから、各地域を1人の担当でやっていただくのを小学校区という単位に新たに編成をし直して、そこを四、五名というグループで担っていただくことで、それぞれフォローしていただきながら、あるいは相談をしながらとか、そうした作業ができてくるので、心理的な負担を下げる。あわせて、民生委員のなり手を増やしていく、いわゆる引き受けていただきやすい環境をつくるということでございます。

### 町田市長

単純な話なのですけれども、隣接して、A小学校区に仮に4人担当がいる、B小学校区に5人いると、12月1日からそうなるのです。将来、10年なら10年後にAの学校とBがくっついたとすると、AB小学校になります。AB小学校で9人になるのです。ですから、1人の担当者の、昔で言う世帯数は変わらないです。ただし、変わるというのは、お互いに1つのエリアのことを情

報が共有できるから1人で抱え込むことがなくなるので、心理的に楽になるということをお話ししています。

ですから、この12月1日からの小学校区、A小学校区、B小学校区、こちらが5人で、こちらが4人だということで、将来、仮に学校が統合されたら、4足す5ですから新しい小学校は9人が担当すると。担当の世帯数は変わらないということをおっしゃっているのです。

## 滝の沢自治会

細かいことで申し訳ないのですが、木曽地区では小学校が2つあります。でも、民生の地区というのが1個で、もうそもそもまとまっているのです。

## 地域福祉部長

一番最初に申し上げましたとおり、これまでの形から小学校区を1つの単位に改めて地図を塗り替えたわけですね。これまでの線引きをしていたところを全部チャラにして、小学校が幾つあります、そこをどのように分けましょうかということで線を引き直しています。その新たな区域を1つ、小学校を中心とした単位としていまして、そこを今の定数で割り返して、およそ四、五名でそれぞれ担当していただくということで、今回、12月1日からスタートします。

今後、小学校の数が変わってきた段階においては、先ほど市長が補足をしていただきましたように、今まで2つの学校があった地域が1つに統合されるのであれば、そこが合体をするわけですので、地域が2倍になって、これまでそこを担っていた方が合わさって担当していただくこととなります。ですので、これまでの地区割は完全に解消されていくこととなります。それが前提のお話となります。

## (司会) 町田市町内会・自治会連合会会長代行

まだ十分理解できない部分があるかもしれませんが、それであれば、滝の沢とおっしゃっていましたね、私は隣の町ですから、後で一度、ゆっくり話したいと思います。

皆さんにお願いしておきたいのは、民生児童委員さんは、あくまでボランティア活動という部分が大きいのです。ですので、町内会長さんはそれぞれの民生児童委員さんとしっかり連携を取りながら、お互いに負担を分け合いながら、あるいは情報を共有しながら活動できればと思っています。よろしくお願ひします。

## 6 小中学校統廃合にスクールバス導入を

生徒数が減少し、小中学校統廃合が進められていますが、登下校の範囲拡大による通学時の安全性の確保が大きな課題となっています。特に危険が大きい

小学生の場合、徒歩での通学距離がおおむね30分以内を基本としているようですが、小学校1～3年生が雨天に傘をさしながら通学することは、大きな危険を伴います。また路線バスも運転手不足により、大幅に減便されつつあります。通学路の危険箇所を改善するのも容易なことではありません。小学校低学年については、スクールバス導入が最も実現可能な安全確保策です。是非とも具体案を策定して、実施するようにお願いします。

## 【回答】

### 学校教育部長

「町田市新たな学校づくり推進計画」では、適正配置の基本的な考え方として、児童生徒の通学時間の許容範囲をおおむね30分程度、通学距離の許容範囲を徒歩でおおむね2km程度を目安としております。

住所に基づく就学指定校に対して、徒歩での通学距離が2kmを超えて通学することとなる児童生徒については、通学時間が30分程度を目安として通学することができるよう、路線バスを最大限活用した上で、路線バスが利用できない地区については、スクールバスやスクールタクシーの導入といった様々な負担軽減策を検討し、実施するものとしております。

通学の負担軽減策について、現在、新たな学校づくりの取組を進めている、本町田、南成瀬、鶴川東、鶴川西、南第一の第1期5地区においては、2023年3月に策定した地区ごとの「新たな学校づくり基本計画」の中で、負担軽減策として路線バスの利用可否を検討し、路線バスの利用が可能であると結論付けております。

その上で、学区外通学制度における特例措置や、通学時の荷物負担の軽減、路線バスを安心して利用できるようにする、といった取組を行ってまいりました。

一方で、今後、新たな学校づくりの検討に着手する第2期11地区については、公共交通機関に加え、スクールバスやスクールタクシーなどの活用可能性について、庁内で横断的に具体的な検討を行うため、2024年8月に、都市づくり部をプロジェクトリーダーとして、子ども生活部、学校教育部の3部によるプロジェクトチームを設置し、現在、検討を進めているところでございます。

プロジェクトチームでは、路線バスに加え、スクールバスやスクールタクシーなどの活用可能性について、関係者の方々のご意見を伺いながら、安全性、利便性、経済性等の要素を総合的に勘案し、比較検討を進めております。

具体的には、各地区において、2024年10月時点での児童・生徒数の分布を見ながら、まずは、徒歩での通学距離が2kmを超え、かつ通学時間が30分を超える地域を把握します。

次に、その地域での路線バスの登下校時間帯の運行状況を確認します。そし

て路線バスが不足または利用できない場合には、学区外通学制度の特例措置により近隣校への分散を図りつつ、想定される対象児童・生徒数に応じてスクールバスやスクールタクシーの導入を検討いたします。

なお、第1期5地区についても、基本計画策定時と状況が変化している可能性があることから、プロジェクトチームにおいて、改めて検証を進めております。

これらの検討結果については、2026年3月を目途に、実現性の高い通学負担軽減策に関する基本的な考え方をまとめた「基本方針」を策定する予定でございます。

## 《質疑》

### 中町中央町内会

私も教育委員会で請願を出しましたし、回答された中身なのですが、まず、石阪市長が審議会の冒頭に、スクールバスを導入しますからと、私は傍聴しながら印象的に聞いております。ですので、学校統廃合が策定の段階でスクールバスが前提であったのが、いつの日か路線バスというふうに変わっていったのです。ここから今の回答に関係するのですけれども、もう先行している2つの小学校、ひなた小と成瀬小学校、子どもたちの通学は非常に困難になっているわけです。ですから、プロジェクトチームで検討していきたいということですが、ぜひ先行している学校もスクールバスを導入していただきたいと。

私は実際に歩きました。今おっしゃった30分ということですが、あの策定が高学年の歩調に合わせております。私が小学校1年生の速度で本町田東の一番隅のほうから本町田小まで歩いたら52分かかったのです。ですから、コンパスのようにやるのではなくて、実際に子どもの目線で歩いて策定して、スクールバスの導入をぜひ検討していただきたいという要望です。

### 金森一丁目町内会

今月の初めに南地区のほうでもやっていただいて、そのときにいろいろお伺いして、ちゃんと答えていただいてありがたかったのですが、2kmというのはそのときに聞きました。それで、今おっしゃっていただいた方と同じところが、1、2年生を対象に考えていただきたいということが1つです。

それから、基本方針がこれから出るということでしたけれども、そのときのプロジェクトチームの中に必ず学校保健健康担当の方を入れていただいて、そのご意見を聞いていただきたいと。暑さ、寒さは、先ほど一番最初に市長のお言葉にもありましたけれども、急に寒くなり、急に暑くなり、特に一番気になるのは夏の帰りです。7月の後半、それから9月の初め、そのあたりの下校時の暑さが非常に心配です。ですから、そのあたりも考えに入れていただきたい。そのあたりをよろしくお願いいたします。

そして、最後に要望ですけれども、この事項に関しては、この次の市政懇談会ではもっと前に入れていただきたい。そうでないと、もうこのぐらいの時間になるのは見え見えでしたので、この次のときには、せいぜい3番目ぐらいに入れていただきたいなど、要望でございます。

#### (司会) 町田市町内会・自治会連合会会長代行

ありがとうございます。また考えていきますので。

それでは最後に、ごみ袋の件で質問を受けなかったのではないかというお話がありましたので、時間がなくて申し訳ないのだけれども、一言ありますか。

#### 金井町内会

すみません。ありがとうございます。

ごみ袋の件なのですが、料金がとか、いろいろなことを言われました。ごみの減量になるとかと言われますけれども、これから先、いろいろとプラスチックごみの減量の件についても市民に協力を願うことになると思うので、それは市民のほうも協力に反対ではないと思いますが、ただ、この物価高において、少しでも市民のためになるようにしていただきたいと思います。

## 第2部 市政全般に関する意見交換

### 市長からの市政報告

真摯な議論をいただきまして、ありがとうございます。

最後に私から挨拶なのですが、20年間市長をやってまいりました。というか、あと3か月なのですが、ここの町の町内会・自治会の活動というのは、基本的に支える仕事というのを職員に対してもしっかりと意識をさせるというか、ここにいますけれども、私としてはそういう基本的な方針を出して市政を運営してきたつもりであります。

それまでの自治会・町内会との関係で少し違ったのは、テーマ型コミュニティーというのですかね、そういう1つの政策についての活動団体も、町内会・自治会も一緒に仕事をしましょうという新しい考え方を提起いたしました。分かりやすく言うと、2018年からやったまちだ〇ごと大作戦も、やるときに、各町内会・自治会の皆さんには、地域のテーマ型コミュニティー、そういう人たちと一緒にやってください、それを条件としてお金も出すし、広報、宣伝もしますよという方針を出しました。おかげさまで、町の活動、町内会・自治会の活動も、いわばこれまでの町内会の人たちでない人との交流が始まって、少し地域の活動の幅が広がったのではないかと勝手に推測をしております。

この考え方というのが、もうちょっと分かりやすく言うと、地域活動サポートオフィスというものが市民フォーラムのところにあるのですが、その活動も地域の皆さんに支えられながら、実はテーマ型コミュニティーの活動も一生懸

命支えていただいております、そういう意味では、地域の活動プラス、テーマを持った活動を融合させることに地域活動サポートオフィスは役に立っているかと思います。

一言だけ言うと、あの地域活動サポートオフィスは、横浜、川崎も含めて、この近隣の中では、いわゆる中間支援団体で最も活動が活発な団体と評価をされておりますので、これからもそういう町内会・自治会の活動にプラスになる団体だということも意識をしていただいて、あそこを使っていたきたいと思います。

改めまして、市政懇をずっと長いことやらせていただきましたが、これからも続けていただいて、町の人を行政に反映する重要な会でございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。どうもありがとうございました。

#### ○閉会の挨拶（町田市町内会・自治会連合会会長代行）

# 町田方面延伸検討ルート





